

おじいちゃんのプライド

孫 翔太

はあ、、、どうしよう、、、

おばちゃん

あら翔太くん、どうしたんだい？

翔太

おばちゃん、、、こんにちは、、、

おばちゃん

はいはい、こんにちは。元気がないねどうしたんだい？

翔太

うん、、、あのね、おばちゃん。僕、今困ってるんだ。

おばちゃん

あらあら、まだまだ小学生なのに悩みがあるなんて、翔太くんは大人だねえ

翔太

からかわないでよお、ほんとに困ってるんだから！

おばちゃん

そうだねえ、、、じゃあおばちゃんが、相談に乗ってあげようねえどうしたんだい？

翔太

今度ね、ニコニコオリンピック小学生の部のスキー大会があって、そこでどうしても優勝したいんだけど、今のままだとどうしても出来そうになくて、どうしたらスキーが上手くなるか分からなくなっちゃったんだ。

おばちゃん

そうなのね・・・あ！それだったらいい方法があるは！

翔太

え！？なにになに？？教えて！

おばちゃん

近所の正おじちゃんと安一おじちゃん、あの二人はね若い頃はそれはもうスキーが上手な2人でね、あの二人たちに教えてもらえばいいんじゃないかねえ？

翔太

えー嘘だーあんなヨボヨボのおじいちゃんが？

おばちゃん

嘘じゃないわよ、あの二人はね若いころかっこよかったのよお

翔太

そーなんだねー

おばちゃん

あらちょうどいい、向こうから二人で歩いてくるわよ

正

いや！俺の方がスキーを始めたのは早かったはずだ！

安一

そんなこたあない！俺の方が早かった！

正

嘘言うな！俺は小学五年生にはもう、あたら山を好き放題スキーで走り回ってたんだ

安一

それなら俺だって幼稚園の頃にはスキー板を履いてそのへん走り回ってたぞ！

正

お前は親御さんに買ってもらってただちよろちよろしてただけじゃないか！

俺なんかスキー板をたけから作って初めて滑ったのは5歳の頃だ！

安一

それなら俺は生まれた瞬間あたら山から親から転がされてたんだ。

正

嘘を言いやがれ！

おばちゃん

あらまあ、またあのふたり喧嘩して。いい歳してみっともないねえ

ほらほら、お二人さん！道の真ん中で大きい声で喧嘩しないの！

安一

お！東屋の女将さん！こんにちは

正

今日も綺麗だね

女将

まったく調子がいいんだから、でもいいところに来たよ、ほら翔太くん

翔太

うん。あのね、正おじちゃんと安一おじちゃん僕にスキーを教えて欲しいんだ！

正

おー翔太くんもスキーやるとしになったか！よし！正おじちゃんが一緒に練習付き合っ
てあげよう！

安一

翔太くんやめとけやめとけ！正おじちゃんに教わったら竹のスキー板で滑らされるぞ
それより安一おじちゃんと練習しよう。
そうだな、まずは今持ってる道具を全部新しいのにして、、

正

また始まった、安一はすぐ道具に頼るから上手くならないんだ。道具なんて安くても大切に
使って練習をいっぱいして自分に馴染んだものになればおのずとスキーは上手くなるものさ

安一

何を言ってやがる、一流の人間は一流のものを持つものだ！
なに！お金の心配なんていらぬさ！
安一おじちゃんは今財布の中に50万コスモ入ってるからな！

正

バカ！50万コスモなんて財布どころかリュックにも収まりきらないわい

女将

はいはい、喧嘩はそこまでにして、2人で教えてあげればいいじゃないの。

安一

そーは行かない、指導書は2人も要らんからな

正

そーともよ。

女将

じゃあどっちが教えるのよ

正
俺だ！

安一
いや、俺だな

正
なにを！

安一
やるかこのやろ！

女将
また始まった、しょうがないふたりだね…
あ！じゃあ久しぶりに競ってみたら？
温泉神社からミドリガ池までのヒマラヤ大通りを

安一
なるほど、女将。いいこと言うね

正
全くだ。こうすれば文句のでようがないからな。

女将
じゃあ決まりね！久しぶりに見れるのが楽しみだわ、ちょうど今日は満月の晩。うってつけの日じゃない！

正
そうと決まればいつもの場所に夜になったら集合だ！

安一
おうよ！負けるのが怖くて逃げるなよ？

正
なにをこのやろう！

安一
なんだと！

女将
こら！いい加減にしないかい！翔太くんの前でみっともない！

翔太

ぼく、、、普通に教えて欲しい。。。

語り

とまあ、大変なことになりました。その日の夜中、2人が温泉神社に集まりまして、ゴール付近のミドリガ池には女将と翔太がおります

翔太

ねえおばちゃん、僕ただスキー教えて欲しいだけなんだけど。

女将

いいからいいから！翔太だって2人が本当にスキー上手か気になるでしょ？

翔太

まあ、、、それはそうだけど、、、

語り

一方温泉神社では、

正

安一お前、また新しいスキーウエア買ったのか！

安一

いいだろ、イタリアに行った時、職人に100万コスモで作らせたんだ。

正

イタリアでコスモは使えないだろ！

安一

うるせえ

正

まあいい、準備はいいか？

安一

もちろん

正

じゃあいつも通りの合図でスタートだ

安一

おうよ！

正

いくぞー【ニコニコ共和国1.2.3!】

安一

それいけー!

翔太

あ!おばちゃん!遠くの方から2人が見えてきたよ!

女将

あらほんとだね!どっちが早いかね??

語り

年はとっても腕は落ちていないふたり、やはり互角の戦いをくりひろげます。実力も似てるふたりは負けず嫌いなのも似てまして、少しでも前に行こうとどちらともなく肩をぶついたり押ししてみたりで、ゴール付近ではもみくちゃの喧嘩みたいになりまして

正、安一互いに

えいえい!おりゃおりゃ!

【ストックで着いたり殴ったり目潰ししたり】

女将

また始まった!ほんとに男ってのはなんですぐそうなるかね!

語り

呆れた女将さん、何を思ったかそこにあった練炭の燃えカスやら、灰やらをコースにぶちまけたから大変、
そこだけ急にブレーキがかかり2人がそのままずっこけてゴロゴロ転がってミドリガ池にどっぽーん!

翔太

おじちゃーーん!!!

そんな、おじちゃん達が死の池に、、、

ふたり

てめーこのやろう!押しやがったな!

なにをこのやろう!てめーこそ、目潰しくらわせやがって!

なにを、このやろー、こんちくしょー!

語り

万事休すかと思われた二人ですが、なんとミドリガ池の温泉排水に浸かったふたりはつるつる美肌になって出てきまして

女将

またこれだよ、全くこのふたりが競い合うと3回に一回はこうなるんだから、、、

翔太

そんなに！？そんな頻度で突っ込んでるの！？

女将

まあ、これを見てると2人ともまだまだ長生きするわね、ふふふ

翔太

笑い事じゃないよ！

語り

そんなこんなで結局ふたりで、翔太の指導をすることになる、さあ練習に練習を重ねましていよいよニコニコオリンピック当日になりまして、もちろん正、安一両おじいちゃんと東屋の女将も応援に駆けつけまして。

正

いよいよ本番だな、、、今思うと昨日あと50キロ走り込みが足りなかったような、、、

女将

何言ってるんですねえ正さん、本番前日にやらすことではありませんよ！

安一

心配だなあ、、、そういえば昨日新しいストックがイタリアから発売されてたのお今から買って翔太に持たせよう！

女将

だから安一さん、本番直前にそんな事したらダメですよ。

あ！ほら！始まりますよ！

ナレーション

さあ！いよいよ始まります。ニコニコオリンピック、スキー小学生の部

さあスタート位置につきましてよい、どん！

正

あー、、、！スタートがいかん！昨日あれほど言ったのに。翔太！今からそこで腹筋1000回じゃ！

女将

正さん！今は試合中ですよ！

安一

どうもスキー板の滑りが悪い、、、そうだ！今からイタリア製の最高級カーボン板を買ってこよう！500万コスモもあれば足りるだろう！

女将

だから！安一さん！試合中ですよ！

ナレーション

さあ試合ももう終盤、先頭は誰だ??

おーっと！先頭はなんと無名のダークホースあたら小学校5年生のゼッケン番号2525の翔太くん！

速い速い！他を寄せつけない強さで今！ゴーーーーーール！

正、安一

やったー！翔太が1位だ！優勝だ！

俺のおかげだな、

いや俺だ！

なにを！

やるか？！

女将

はいはい、こんな時まで喧嘩しないの！

2人のおかげですよ。

あ！ほら！翔太くんの表彰ですよ。

ナレーション

優勝はあたら小学校5年生 翔太くんです！

おめでとうございます！

翔太

ありがとうございます！

ナレーション

強さの秘訣は、やっぱり沢山した練習かな？

翔太

それだけじゃないですよ

ナレーション

なるほど、じゃあこの大切そうに使ってるスキー用具かな？

翔太

それもあるけどそれだけじゃないんだ！

ナレーション

他にもあるんだね？じゃあ翔太くん。なんで優勝できたと思う？

翔太

それはね、間に入ってくれた女将さんのおかげです。

了